



## A．研究目的

これまでグローバルヘルスなどの 21 世紀的な国際貢献のあり方は一部では注目されながらも深く議論されてこなかった。日本の ODA 予算の劇的な増加が見込めない中では、いかにして援助効果の高い支援を行なっていくことが重要であるが、これまでの我が国のグローバルヘルス分野の貢献は十分に可視化されてこなかった。

本研究では、これまで不透明になりがちだった国際貢献の姿を一次データに基づき、わかりやすく可視化することで、あるべき日本の国際貢献戦略を検討する契機となることを目的とする。

## B．研究方法

「ビル&メリンダ・ゲイツ財団（以下、ゲイツ財団）は、共同議長のビル・ゲイツ、メリンダ・ゲイツ夫妻によって創設された世界最大の慈善基金団体である。途上国における人々の健康状態を改善し、極度の貧困からの自立を支援しており、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の達成に向けても、活動を展開している。近年、ゲイツ財団は 2017 年に東京に新たな拠点を置き、グローバルヘルス等様々な国際協力分野において日本政府および関係諸機関との連携を強めている。こうした日本政府とゲイツ財団の相互の協力関係の高まりの中で、外務省を含む関係省庁や国際協力機構(JICA)などへ協力を相談してきた結果、本ウェブサイトの開発事業が計画された。国立国際医療

研究センター(National Center for Global Health and Medicine: NCGM) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター (Institute for Global Health Policy Research: iGHP) が本事業の実施主体として選定されたが、東京大学国際保健政策学教室では、データ解析の補助や、ウェブサイトの対象に向けての効果的な見せ方等の戦略について協力を行なった。

利用データについては、2012 年から 2016 年までの ODA(政府開発援助資金)に限定し、外務省及び JICA (国際協力機構) からデータの提供を受けた。得られたデータについては OECD DAC が定める分類に基づいて整理を行い、分野別・地域別に解析を行った。また、今年度は、多国籍機関へのノンイヤーマーク拠出金の分析を新たに実施し、より包括的な資金動向の推移を分析した。

得られた結果については全てウェブサイト Japan Tracker (<https://japan-tracker.org>) に掲載を行った他、日本国際保健医療学会で発表した。また、論文は 2020 年度に掲載が確定している。

## C．研究結果

2019 年度は、昨年度に引き続き Japan Tracker とその元データを用いた分析を進めた。昨年度は二カ国間援助を中心に過去の日本の保健医療分野への貢献を分析したが、今年度は多国籍機関への拠出も含めて日本の医療分野に対する ODA(DAH)の年間貢献額や DAH の

分野別・地域別解析を行った。

2012 年から 2016 年の間に DAH の年間貢献額は 750 億円から 973 億円の間で変動し、年平均成長率は 2.9%であった。また、DAH 総額の 48.4%がアフリカ、24.2%が南・中央アジア、11.3%が東・東南アジアに流れた。

保健分野別に分析した際、2016 年 DAH のうち、41.0%がプライマリ・ヘルスケアを含む保健システム・サービス開発、10.1%がリプロダクティブ&チャイルド・ヘルス、8.2%が保健インフラのためのものであった。特定の感染症においては、9.7%が HIV/AIDS、6.8%がマラリア、4.3%が結核、14.6%がその他の感染症のためであった。

#### D . 結論

Japan Tracker は、我が国の ODA 予算に占める保健医療分野への効果的な資金配分を方向付ける主要な情報源としての役割を果たす可能性がある。

例えば、UHC 達成のためには、システム指向と疾患別支援による相乗的なアプローチが必要であり、地理的領域も踏まえて横断的で戦略的な DAH の調整が必要となる際に Japan Tracker を活用することができる。また、今回 Japan Tracker は ODA 予算に限った分析であるが、今後は ODA 以外についても広く保健医療分野への投資を分析・可視化していき、我が国の ODA 以外の公的資金や民間セクター資金による戦略的な保健分野への投資調整も重要となる。

#### E . 研究発表

##### 1. 論文発表

特になし

##### 2. 学会発表

Maaya Kita Sugai, Shuhei Nomura, Haruka Sakamoto, Keiko Maruyama-Sakurai, Haruyo Nakamura, Yoko Muto, Sangnim Lee, Anna Kubota, Aya Ishizuka, Manabu Sumi, Misaki Kawaguchi, Hidechika Akashi, Eiji Hinoshita, Hajime Inoue, Kenji Shibuya. **Japan's development assistance for health: a temporal, geographical, and focus-specific evaluation of bilateral and multilateral financial contributions, launching the Japan Tracker.** 第 34 回日本国際保健医療学会. 三重. 2019 年 12 月.

#### F . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

特になし

##### 2. 実用新案登録

特になし

##### 3. その他

特になし

